

平成から令和へ ～新しい同窓会の歴史のはじまり～

日體 静岡県 同窓会報
(第三十五号)



日本体育大学静岡県同窓会

会長 松田 清孝

(昭50卒)

東京オリ・パラを契機とした 同窓会の充実

日體第三十五号の発行にあたり、会員の皆様に謹んでご挨拶を申し上げます。

皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げますとともに、日頃から本会の活動にご理解とご協力を賜っておりますことに感謝を申し上げます。

平成に代わる新たな元号が「令和(れいわ)」と改められ、美しい心を寄せ合うことで文化が育まれ、それぞれの花が咲き誇る日本であります。願いを込めたこと。我が国として母校日本体育大学の文化や特性を世界に情報発信する契機にするとともに、世界の平和を心から願うものであります。

東京オリンピック・パラリンピックの開催を一年後に控え、競技会場の整備やボランティアの準備が着々と進んでいる様子が聞こえてまいります。また、日本代表選手を決める各種大会の情報が飛び交い、日体大関係者の活躍に胸躍る思いで注目されている同窓の皆様も多いのではないかと思います。

大学の松浪健四郎理事長は、「日体大関係者で七十人のオリ・パラ・ピアン輩出と十個の金メダル獲得を目指す」と宣言され、オリンピック・パラリンピックを契機に、「身体にまつわる文化と科学の総合大學」として日体大を世界にアピールすることを目標に掲げられております。

四月三日には大学の入学式が挙行され、一、八二二名の新入生を迎える勢いを増す「日体大」を確信しました。静岡県同窓会もオリンピックムーブメントの一環として様々な支援活動を展開し、母校発展のため尽力したいと思います。

平成三十年度の活動を振り返りますと、八月に静岡市内で、一月には世田谷キャンパスで本県出身の学生を対象に「就職対策研修会」を開催、十一月初旬には日体フェスティバル(学園祭)への協力として、本県同窓会初の地場産品販売ブースを出店しました。県温室農業協同組合様の協賛により、袋井特産クラウンメロン及び関連商品の展示販売を実施し完売するなど人気を博しました。

十二月三十日には保護者会と連携して富士山女子駅伝の日体大チームを応援し、報告会では選手を慰労するとともに、次年度に向けた激励を行いました。大学が発表した学生の就職状況によりますと、教職に就く学生は約二割、公務員約一割、民間企業約七割となっています。かつての体育学部のみの時代から、五学部九学科となりたことで就職先が多様化し、体育教員を目指す大学のイメージは変わりつつあります。同窓会も教員主体の運営ではなく、民間で活躍される同窓生のお力を得て、多くの同窓生が声を掛け合い総会や各地区会に顔を出してもらえるよう、働き掛けていかなくてはならない時代を迎えています。

今後は各年代別に代表者を選任するなどの方法も検討し、後輩を支援し母校日体大の発展をサポート出来るよう同窓会の充実を図つてまいりたいと思いますので、皆様には一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、挨拶といたし

